

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 総 第 18 号	氏 名	東 亜 弥 子
審査委員	主 査 浜野 龍夫 副 査 真壁 和裕 副 査 三浦 哉		
学位論文題目 外的環境下における抗酸化剤の摂取が循環器疾患予防に寄与する可能性に関する研究			
審査結果の要旨  <p>提出された論文は、社会におけるヒトを取り巻く外的環境 (受動・能動喫煙・騒音曝露など) が循環器疾患のリスク因子になりうることへの現状と問題点をまず整理し、動脈機能への影響を検討、さらに、これらに対して抗酸化剤を摂取することによって動脈機能に与える意義を考察するとともに、騒音対策および社会に向けての予防啓発、能動・受動喫煙への対策を進めることへの重要性について、それぞれ提言している。</p> <p>筆者は、大学において食についてのあり方について教育に携わる中で、現代社会の人々が直面している生活習慣に関連する他の因子が、循環器疾患のリスクと隣り合わせであり、これらに対する一次予防について考えていく必要があることに直面していることから、本研究に着手した。それらを追求する研究として、①若年成人男性の喫煙習慣が動脈機能に及ぼす影響、②ビタミンCが一過性の受動喫煙時の動脈機能に及ぼす影響、③ビタミンCの摂取が一過性の加熱式タバコ喫煙後の動脈機能および酸化ストレスマーカーに及ぼす影響、④一過性の短時間の騒音曝露が血管内皮機能位及ぼす影響、⑤ビタミンCの摂取が一過性の短時間の騒音曝露における動脈機能に及ぼす影響について、各章で考察している。外的環境下 (受動・能動喫煙・騒音曝露) における抗酸化剤の摂取により動脈機能の低下を抑制するといった結果が得られているが、決して抗酸化剤の摂取をした上での同環境曝露を推奨するわけではないことを結論付けている。</p> <p>本論の学術的独自性は、ヒトが日常生活の中で外的環境因子に晒される環境に着目し、動脈機能への影響を検討するとともに、これらを踏まえ、抗酸化剤の摂取を日常生活レベルで取り入れる状況にしている点に着目し、新しい知見を示していたことである。これらの知見は、健康寿命を目指すためにも、社会的な喫煙率の低下、禁煙活動、および受動喫煙防止、さらに環境騒音への関心に対する積極的な取り組みのための一助になることから、社会的意義も認められる。</p> <p>以上の研究成果は、日本体力医学会の学術雑誌「体力科学」2報と、副論文である四国公衆衛生学会の学術雑誌「四国公衆衛生雑誌」1報、および複数の副論文から構成されている。</p> <p>本論文は、健康寿命を目指すためにも、社会的な喫煙率の低下、禁煙活動、および受動喫煙防止、さらに環境騒音への関心に対する積極的な取り組みのための一助になるものであり、学術的かつ社会的価値があるものと評価できる。したがって、本論文は総合科学教育部の博士論文として一定の水準に達するものであり、博士 (学術) の学位に相当するものであると認められる。</p>			